



十五番下

特別  
 ~13  
 4271  
 28

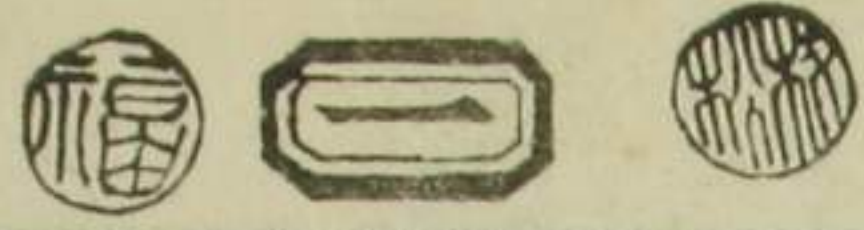


十五番上

特別  
 ~13  
 4271  
 27

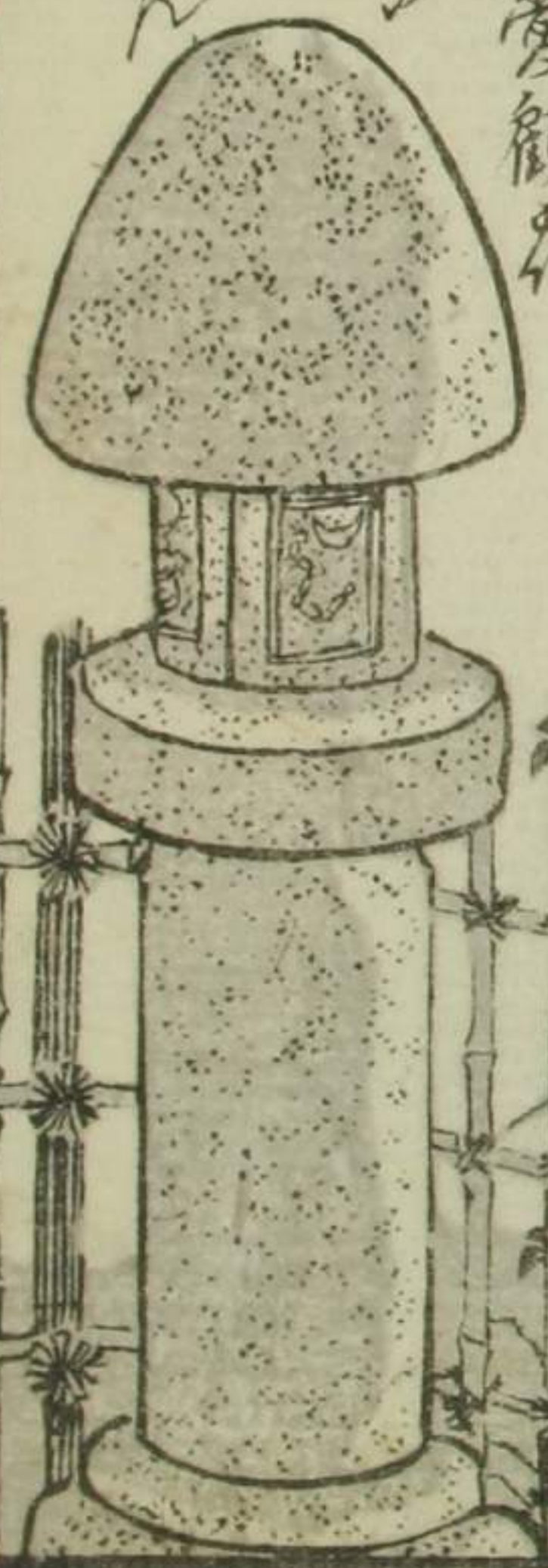






犬坂 いぬさか  
毛野胤智 けののむねちか

子魚 こいさ  
春 はる

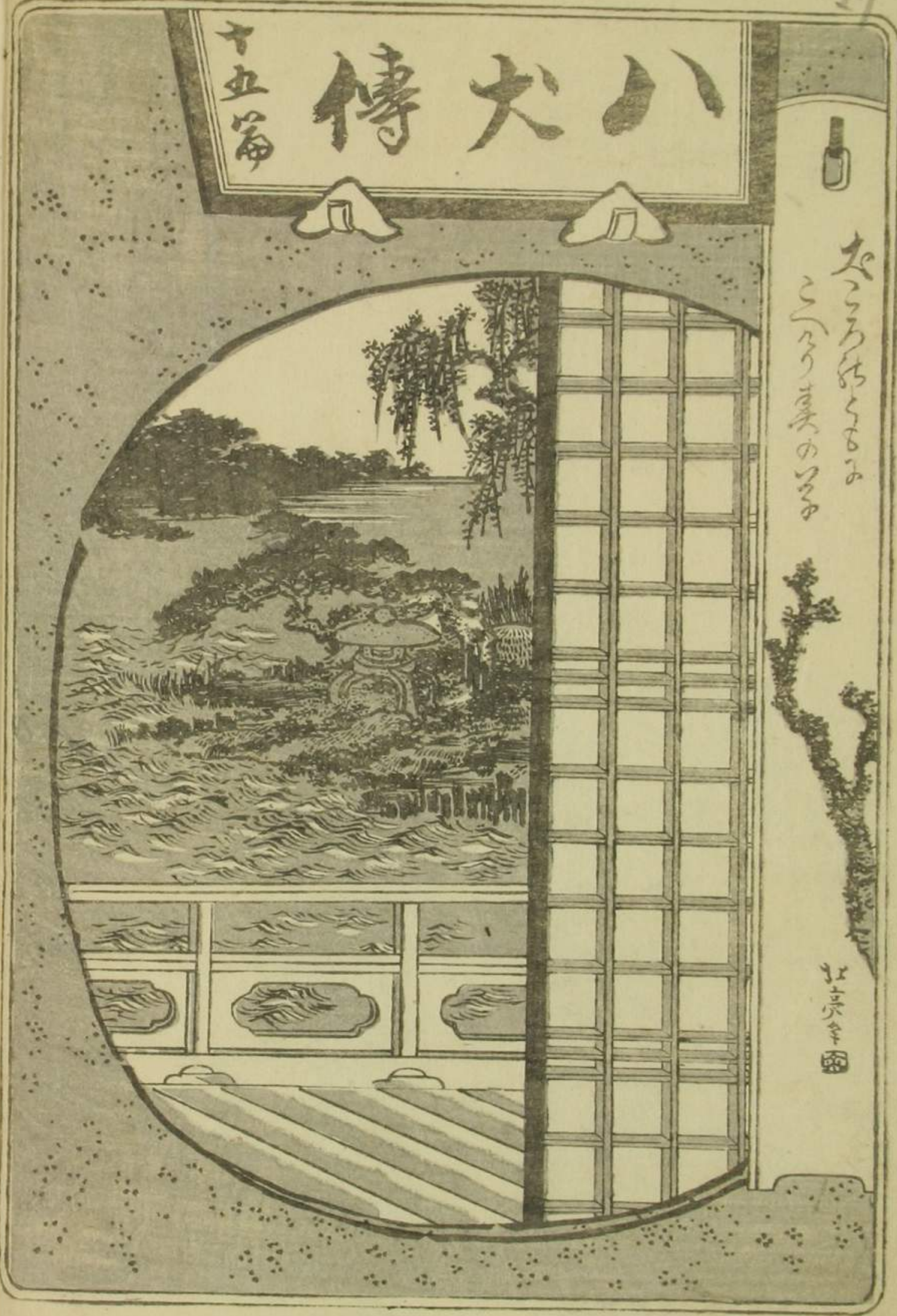


愚公が山を移すは... 孫や孫の孫... 運ぶ  
あま編数... 十の杖... 智... 徳...  
庚申山猫の变化... 遠き... 為永  
春水記

八犬傳

八犬傳 はつけんでん

十五篇 じゅうごほん



なごり...  
こころ...  
まの...  
江

江













つたまはびやうあ  
まののちやうと  
あつたふ文書  
かきまわらぬ  
うらやまを  
そのまゝ  
ざんげを  
大記のあか  
げのまゝ  
足らぬ  
かうと  
かきまわらぬ  
あつたふ文書  
かきまわらぬ  
うらやまを  
そのまゝ  
ざんげを  
大記のあか  
げのまゝ  
足らぬ  
かうと



あつたふ文書  
かきまわらぬ  
うらやまを  
そのまゝ  
ざんげを  
大記のあか  
げのまゝ  
足らぬ  
かうと  
あつたふ文書  
かきまわらぬ  
うらやまを  
そのまゝ  
ざんげを  
大記のあか  
げのまゝ  
足らぬ  
かうと

あつたふ文書  
かきまわらぬ  
うらやまを  
そのまゝ  
ざんげを  
大記のあか  
げのまゝ  
足らぬ  
かうと



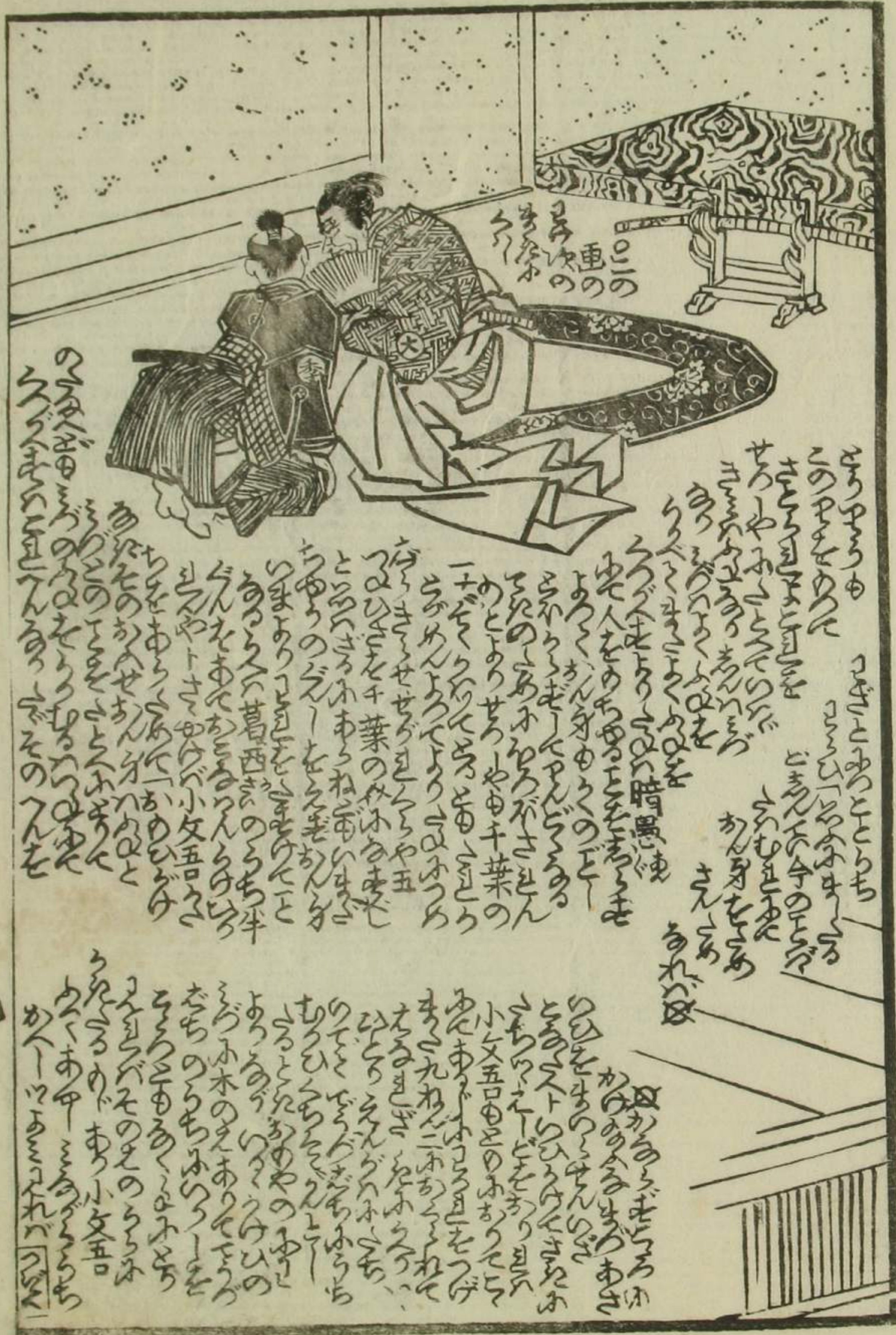
あつたふ文書  
かきまわらぬ  
うらやまを  
そのまゝ  
ざんげを  
大記のあか  
げのまゝ  
足らぬ  
かうと





つたさうに「そのあやのう  
かんざうあるうははんせん  
まごせまをまひーとらん  
あてせーをあらうぞるやん  
トのふく小文吾うあつたて  
「あつたてをまひーふりま  
むとふまうとこまひーして  
むし下のひつ大記ふま  
る百で對牛樓にまひー  
ふらちのふはまきしよ  
まひーのふまひー  
のふまひーのふまひー  
まひーのふまひー  
日とゆるふまひー  
ひひーをあらうまひー  
ふる里のあやとどちのふ  
つてゆちのまひー  
あつたてをあらうまひー  
ふりらう大記のまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー

そのあやのう  
かんざうあるうははんせん  
まごせまをまひーとらん  
あてせーをあらうぞるやん  
トのふく小文吾うあつたて  
「あつたてをまひーふりま  
むとふまうとこまひーして  
むし下のひつ大記ふま  
る百で對牛樓にまひー  
ふらちのふはまきしよ  
まひーのふまひー  
のふまひーのふまひー  
まひーのふまひー  
日とゆるふまひー  
ひひーをあらうまひー  
ふる里のあやとどちのふ  
つてゆちのまひー  
あつたてをあらうまひー  
ふりらう大記のまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー



このまひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー

まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー  
まひーのふまひー

大傳十五



# 國芳画春水作



ついでにやあふれぬ  
のたまのたぎりを  
あつたのたまをち  
こゝろまゝのたまを  
くたさるかのたまを  
あつたのたまをち  
このたまをちのたまを  
あつたのたまをち

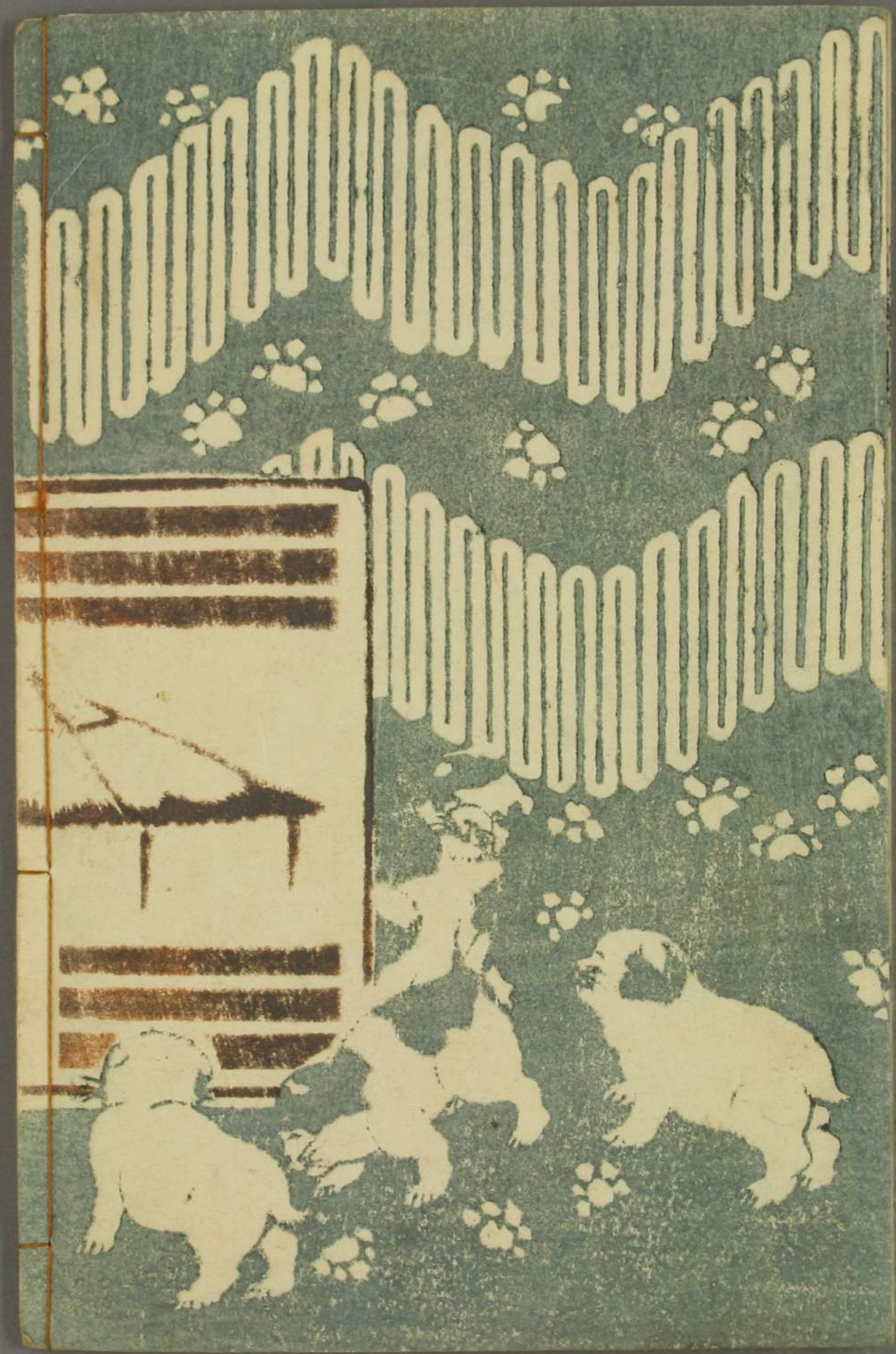
かのおまのたまを  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち

大記のたまを  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち  
あつたのたまをち

由直と稱し輯入大傳の世に流るる事二十餘年古今未嘗有の佳作也本編  
二百六卷あり然るも道有六の巻と號あり各々八の巻の後に或は或は  
人物の姓名を標するもあつたのたまをち本編の趣向を備へて後本を  
わさとの化をあらわし其心に推して向ふ遠回りの大傳の明記を  
大の巻に依りてのたまをちのたまをちのたまをちのたまをちのたまをち  
ゆゑに新しきことといふは此のたまをちのたまをちのたまをちのたまをち  
あつたのたまをちのたまをちのたまをちのたまをちのたまをちのたまをち  
あつたのたまをちのたまをちのたまをちのたまをちのたまをちのたまをち  
あつたのたまをちのたまをちのたまをちのたまをちのたまをちのたまをち



大傳馬貳丁目  
丁子屋平兵衛板





十五番下

乃  
永  
紀

特別  
~13  
4271  
28







あつきの  
ついでに  
しるし

あつきの  
ついでに  
しるし

あつきの  
ついでに  
しるし

あつきの  
ついでに  
しるし

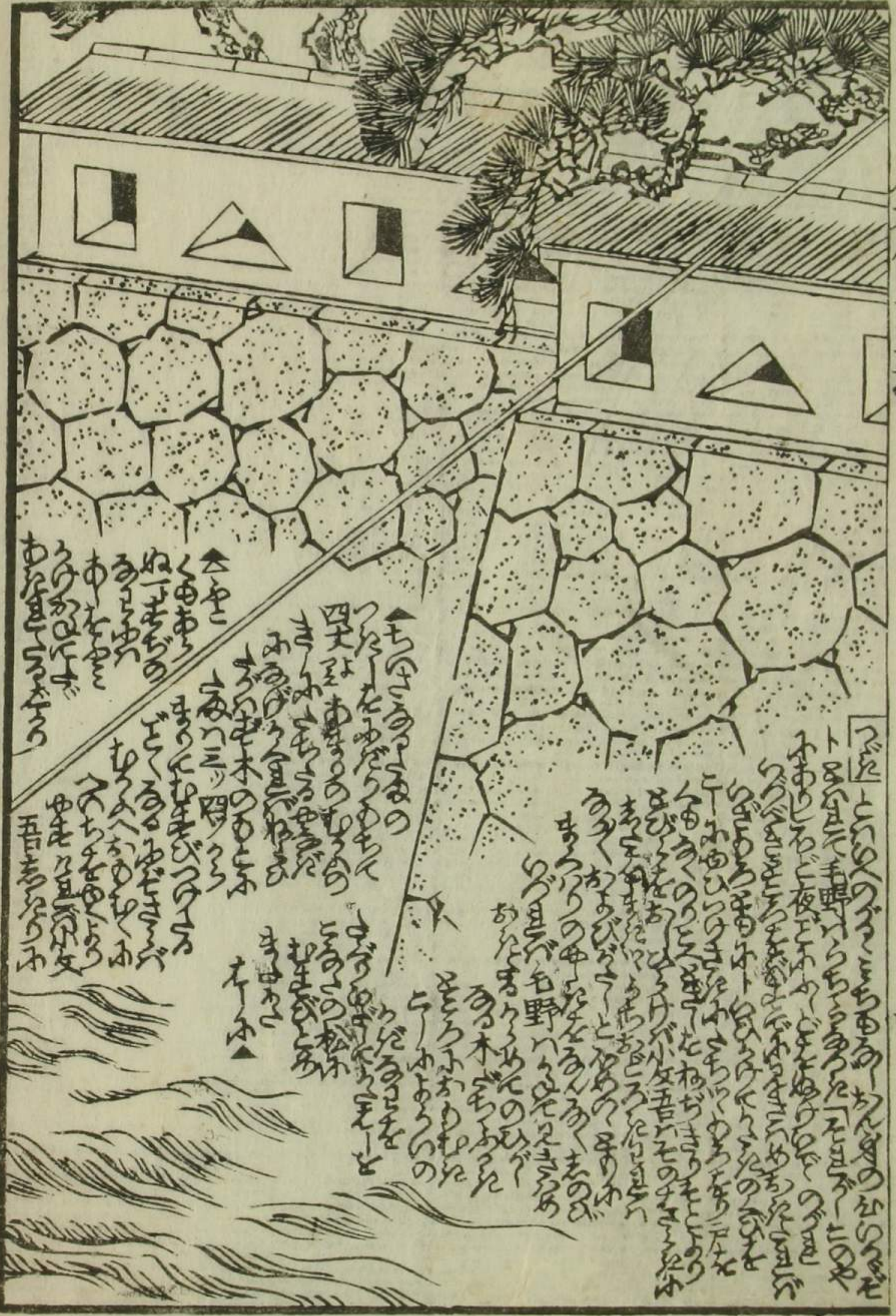
あつきの  
ついでに  
しるし



















朝鮮牛肉丸 一包八百銅  
 鮮牛肉丸 一包八百銅  
 鮮牛肉丸 一包八百銅  
 鮮牛肉丸 一包八百銅

對 深崎氏

# 為永春水作一勇齋國芳画



△此のてうまなをうら  
 さうてうまなをうら  
 さうてうまなをうら  
 さうてうまなをうら

△此のてうまなをうら  
 さうてうまなをうら  
 さうてうまなをうら  
 さうてうまなをうら

梅の雪

御免 かんじ  
 小兜下  
 大和門  
 文溪堂

文溪堂

丁子屋平兵衛



假名讀  
八犬傳

十五篇

加永春水作  
一勇高國書  
魚 立漢堂

孫村

津濱

堂峰

文島

古陸堂

一城幸

林平

北亮

昌文堂

居一

